



## わが家のアイドル

原町 三友千秋さん 35歳

最近、少しずつおしゃべりや物まねができるようになった颯太。毎日いろいろな言葉を話したり、音楽に合わせて踊ったりして私たちを楽しませてくれます。

ご飯を食べて「おいしいー」と言ったり、花を見て「きれいー」と言ったり、まねしてテーブルを拭いてみたり、CMのまねをしたりと...毎日新ネタを披露してくれます。そんな姿をほほ笑ましく思うとともに、日々の成長の早さに驚きと喜びを感じます。

子育ては想像以上に大変で毎日が勉強ですが、これからも焦らずゆっくりと子供と共に私たちも成長して行きたいと思います。そして颯太には今のピュアな心を持ち続け、優しく、スケールの大きな人間に育ってほしいと思います。

## マイカーデコレーション パーゴラのある家と花づくり



このパーゴラ(花の棚)は、シンプルな家のアクセントとしてつけたものですが、自分の好きな花や葉で、ハンギングバスケットをつくり飾っています。

庭はアジサイ、ユキヤナギなどを植え、調和がとれるように、季節に合わせたコンテナ(鉢箱、バスケットなど草花を植え込む器)を中心とした庭づくりをしています。今の季節は花期が長く、花姿の愛らしいパンジーとピオラをアリッサムやシロタエギク、ツルニチニチソウ、アイビーなどと取り合わせて楽しんでいます。コンテナは季節に合わせて移動したり、植え替えが自由にでき庭の変化もつけやすいので便利です。

庭に出て花の手入れをしていると、無心になり、時のたつのも忘れて夢中になってしまいます。また、手をかけた分だけ美しく咲いてくれるのでやりがいがあります。これからも楽しみながら続けていきたいと思っています。

東本町三丁目 和山裕美さん



CMの物まねが得意な颯太くん(2歳)

## KOGA 万華鏡

### 遊び心の名画鑑賞

### 立体名画シリーズ「AOKI」の魅力

ゴッホやセザンヌ、美術史上大きな足跡を遺した名だたる画家の絵画。ここに紹介したのは、そうした名画をベニヤ合板で立体化した美術作品です。

作者の青木世一氏は、昭和29年(1954)茨城県五霞町生まれの造形作家。東京芸術大学大学院美術研究科の修了制作で、サロン・ド・ブランタ

ン賞(1979)を受賞、その後美術展等で数多く受賞を重ねます。第27回現代日本美術展(1998)にて、セザンヌの名画「玉葱と瓶のある静物」を立体化した「セザンヌ「キット」で準大賞を受賞し、以来、「アオキ」と名付けた立体名画シリーズを展開しています。



ゴッホ = キット「ゴッホの部屋」

この作品は、60年代のアメリカを中心に起こった美術動向であるポップ・アートの影響を感じさせます。大量生産・消費社会を反映させた、社会批判的な芸術といわれるポップ・アートですが、青木氏はモデルの箱を手にしたときの、少年時代のワクワクした懐かしい記憶を託し、ユニークであたたかみのある造形世界を創り出しています。

二次元におさめられた絵画の世界を、いわば三次元に再構築した青木氏の作品は、創作過程において画家の作意図を深く探求するという面を伴います。そのため、立体

名画は「積極的な絵画鑑賞をねらいに平成14年度小学校高学年図画工作の教科書にも紹介されました。美術をいっそう身近で楽しいものにしてくれる、遊び心に溢れた立体名画の世界をぜひご覧ください。(街角美術館企画展「青木世一展」は3月24日〜4月5日まで)

古河街角美術館学芸員 倉井直子